



# Karigawe



かりがね



NO. 367

【季刊】かりがね

発行人／社会福祉法人かりがね福祉会  
昭和54年9月26日 第三種郵便物認可  
3、6、9、12月1日発行  
平成26年12月1日発行



## CONTENTS

表紙写真：OIDEYOハウス

裏表紙：風の工房

OIDEYOハウスの取り組み…………… P1,2

かりがねフェスティバル報告…………… P3

本原地区地域交流会…………… P4

感謝録・藤林さん、金沢さん逝く…………… P5

真田地域人物探訪・編集後記…………… P6





## OIDEYO ハウスって どんなところ？

今号の表紙は『OIDEYOハウス』で働くみなさんです。

OIDEYOハウスは真田の入軽井沢にドーンとかまえる就労継続B型の福祉事業所。

“働く!” “売れる商品作り!” を第一に奮闘しております。

OIDEYOハウスでの作業は大きく分けて「農作業」「室内製作」「食品乾燥工場」の3つありますが、今回はそれぞれ紹介したいと思います。

### 農作業

わたしたちのこだわりは「安心・安全!!」で  
できるだけ農薬や化学肥料は使わずに育ててい  
ます。新たに「にんにく・ごま」の作物にも  
挑戦!出荷をお楽しみに♪



### 室内作業

#### 雷グッズ

カラフルにピカピカ光る雷グッズは看板屋さ  
んからいただいたシールを米袋に貼り、熱で密  
着・ミシンで加工するOIDEYOハウスの看板商  
品。利用者さんの個性がはじけます。



#### 織り製品

「どんな色合いがいいだろう?」「すきまが  
ないように」1本ずつ利用者さんが心をこめる  
織りは手触りも温かく、一つとして同じ色合い  
のないオンリーワンな製品。

新商品のねこポーチも好評です!

## 食品乾燥工場

食材の乾燥・粉碎や衛生面の管理、清掃、パック詰め、納品全てを利用者さんも仕事として担っています。新商品の中野市(株)ダイマツさんとのコラボ商品『信州えのきジャーキー』も好評販売中!



## 【まとめ】

昨年からNHK『バリバラ』のテレビ放送で取り上げられたこともあり、ただいま販路が全国に展開中です。

「私たちの作ったものが全国で売られている!」「買いたい・必要としてくれている人がいる!」そういった想いから利用者さんのモチベーションもぐんぐんとUP。

3つの作業種で、それぞれが自分の仕事に真剣にとりくみます。ステキ!

そんな利用者さんの姿にスタッフも負けじと考えます。どうしたらもっと売れる製品になるのか?利用者さんの働きやすい環境・支援とは?日々OIDEYOハウス全員で「働く」ことに真剣に取り組んでいます。

これからも“働く!”事業所としてOIDEYOハウスは進化し続けます。

## 乾燥りんご & えのきが銀座NAGANOで販売されます

東京銀座で信州ブランドをPRするアンテナショップ『銀座NAGANO』が

OPENしました。信州を代表する物産と『乾燥えのき&りんご』も肩を並べて販売されます。

詳しくはこちら→

<http://www.ginza-nagano.jp>



## お問い合わせはこちらまで

OIDEYOハウス 0268-73-0005

乾燥工場 0268-73-2292

お気軽にご連絡ください♪

HP <http://oideyohouse.com/>

twitter @OIDEYO2

Facebook OIDEYO

もチェックしてみてください。



10月19日(日)

## かりがねフェスティバル 2014

今年のかりがねフェスティバルはいかがだったでしょうか。当日は天気にも恵まれ、建物内外が多くのお客様でにぎわっていました。今年のテーマは「輪～広げよう・支え合おう・人の和～」でした。かりがねフェスティバルを通じて、利用者さん・ご家族・スタッフ・地域の皆さん……素敵な「輪」になれたかなと思っています。

ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

(実行委員長 滝沢)





9月6日(土)  
地域交流会

去る9月6日土曜日、秋晴れの空のもと大畑地区にあるアトリエFuuとかりがね共同生活サポートセンターにて、日ごろからお世話になっている地域の方々をお招きしての交流会を行いました。

二年ぶりに再開されたこの地域交流会。前回まではアトリエFuuとして行っていましたが、今年度は同地区にグループホームを設置しているサポートセンターと一緒に開催しました。地域の方々は大変から子供まで遊びに来ていただき、ご家族と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。スタッフの手による焼きそば、わたあめ、フランクフルト…小さな手作り縁日で、好きな物を選び参加者のみなさんの楽しい声が溢れる秋の素敵な一日になりました♪



## 感謝録

皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

※敬称略させていただきます 平成26年4月1日～平成26年9月30日

## 寄贈物品

池田組 小林けさえ 小井土昌廣 春原道昭  
 前島勲 宮沢栄一 藤林昇 塚田正 小林けさえ  
 藤林八一様ご家族 真田中学校 吉野修通  
 柳沢伸治 中村ミサ子 宮崎佐喜子 細田和子  
 中村範子 村本俊治 森泉綾 金沢秀明  
 草野澄隆 櫻井秀和 池田恵一  
 長野県医薬品配置協議会 細田和子 中村範子  
 富所順子 匿名希望 葱、牛乳パック、タオル、  
 ウェス、お菓子、ウェス、缶ジュースじゃが芋、  
 清酒、布、衣類、糸、葡萄、白菜、白米、  
 マスク、ハンドソープ、手指消毒剤他

## 寄付金

小林崇章 小林彰 石原張男 (株)石原産業  
 金沢秀明 堀内艶子

合計 1,567,250円

## 平成26年度運営会員ご入会者

■長野県 小林崇章 柳澤信司 南澤聖子  
 小林彰 三井勇 西沢美乃留 塚田弘人  
 佐藤政弘 佐藤琢磨 町田結花 宮下博一  
 樋口俊文 小林早苗 (有)加藤製作所 成沢洋一  
 前島勲 佐藤政弘 小池美治 柳澤正敏  
 上原幸一 成沢勝 坂口みゆき 阿部きよ子  
 佐藤光生 尾崎昂吉 赤平年三 長谷川亜季  
 秋山雅春 花岡尚 恩田浩子 高山静子

山崎康子 宮沢栄一 関孝之 工藤量男  
 西沢勝典 久田節子 大塚猛 小菅暁 金子恵  
 丸山節雄 中沢久美恵 土屋清二 塩澤満孝  
 大久保今朝子 細谷裕治 宮森文男 村上保子  
 箱山邦雄 堀内東洋子 田中まもる 田村ひとみ  
 中村彰 久保田由夫 中田裕美 安藤栄子  
 富所順子 すずの会会長 秋山美代子 職員 151名  
 ■北海道 佐藤俊光 木嶋悦寛 ■宮城県  
 石川明子 ■東京都 馬渡令子 松本亜紀  
 ■神奈川県 永井好子 ■千葉県 酒井信子  
 ■埼玉県 佐々木良子 ■愛知県 松下保江  
 ■新潟県 高橋良枝 ■京都府 宮木つや子

(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

## 平成26年度運営会費納入金額

	会員数(名)	会費(円)
長野県	386	1,768,261
北海道	4	38,000
東北地方	7	42,000
関東地方	74	519,981
中部地方	1	59,000
北陸地方	9	63,000
近畿地方	11	72,000
中国地方	2	6,000
四国地方		
九州地方	1	10,000
合計	505	2,578,242

(平成26年9月30日現在)



## 藤林八一さん逝く



平成26年9月10日、享年74歳にて静かに息を引き取られました。得意なはり絵をして 何かにつけ「いいよ、いいよ」と周りの人々を優しく受け入れてくださり、とても温和でみんなから愛され続けた方です。(重田)

作りに精を出されていた証が表れていました。



## 金沢まさよさん逝く



平成26年9月26日に享年83歳にてお亡くなりになりました。まさよさんのまじめなお人柄は誰からも愛され、一目置かれる存在でした。細くて少し高めのお声で照れながらおっしゃる「だれ～」のお言葉に癒され、納得できない時の「なんで？」には勉強させていただきました。本当にありがとうございます。(志賀)



# 真田地域 人物探訪

若林幸正

社会福祉法大かりがね福祉会元理事 (角間自治会在住)

第五回

曲尾区

大房磐太郎氏

(俳号：如雪庵清月)

## 大房磐太郎 俳号(如雪庵清月)

大房磐太郎氏は、傍陽村曲尾区大房七次郎の長男として、明治11年1月23日生まれ、資性明敏記憶力が強く、満7歳で傍陽村金縄学校へ入学するや、試験の結果上級へ編入されたと言う秀才であった。

## 俳諧の道とその功績

学校卒業後、上田海野町千曲軒の西村二石先生の門に入り勉強する。努力の結果俳句の宗匠となり、門弟も近村近郡とふくめ数百名と数いるようになった。

交遊も中央の有名人が多く、東京では巖谷小波、地方には小諸の吉村煙嶺、本原の高寺小内、東内の青木石農、西塩田の鉄城庵古道、山口村の山崎幹雄、長村の宮下柳水、諏訪の古平雪入、滋野村の清水二六央、等当時広く活躍した面々で、成果にはその遺墨が残されている。

### ・一茶翁100年祭記念集

大正15年に一茶翁100年祭り記念集が発行され、如雪庵清月の句が二首掲載されている。

※編集兼発行者 吉村源太郎

- ・思い出すてんずるてんの袴かな
- ・よし切や雨にもならぬ朝曇り

## 実家での話題

昭和13年秋近衛師団の演習が傍陽村で行われ、その時の連隊長の宿舎が如雪庵宅となり、琴乃氏は非常に早く11月10日頃大雪となり兵隊たちに風邪をひかせまいと火爐を作り兵隊を温めたこの時の情景を清月は短冊に、ごちそうは火爐ばかりの山家かなと詠んでいる。

九州から来た兵隊たちは、如雪庵がさあ皆さん(さあ足を出しておあたり)と言ったら、足を火爐の後ろの方へ伸ばし、頭を火爐の中に入れて暖をとったと言う笑話も残っている。

昭和23年の年頭と題して、何事も花に見ておけ今朝の雪と詠いこの歌を最後に俳諧活動から身を引いている。

晩年は大豆から製した豆乳を研究し、自分も飲み人にも飲用をすすめ、豆乳に関する研究という人生を送った。

昭和28年1月5日傍陽村に於いて俳聖如雪庵清月は門弟達多数に見送られ、永遠の旅立ちをした。

※資料に当たり記憶したこと傍陽村には他に、三井縫右衛門、枚内周右衛門等の立派な俳人、歌人がいたこと。



大房磐太郎氏 遺影

コラム・大房磐太郎氏は人情深き人望  
深き人と受け止めた  
文 献・傍陽村人物史  
・如雪庵清月  
協力者・大房康彦氏 (磐太郎氏孫)

編

集

後

記

いつの間にか肌寒くなってしまい、山々の紅葉も終わりすっかり冬ですが、みなさん体調は崩されていないでしょうか。今回機関紙は秋の記事でしたが、たくさんイベント事がありましたね。私達かりがね福祉会でのかりがねフェスティバルの他にも、地域では真田

地域一周駅伝、それぞれの学校の音楽会や文化祭、スポーツの秋だけでなく食欲の秋、楽しかったこの季節をみなさん元気に過ごすことができましたか。なにごととも体が資本です、今年も残り1ヶ月みなさん素敵な時間を過ごしてください。(菅沼)

